

春芽増収のための刈取りまでの管理について①

R3.9 アグリ技研（株）

1.春芽増収への必数要件

①9月～12月上旬までの茎葉を傷めず緑色から黄金色に推移する。

◎「8月中旬の多雨影響での褐斑や斑点病の防除徹底」

②11月までは光合成の活性化を促進する。（草勢の維持）

◎葉面散布での草勢維持 9～10月/中旬

「葉色低下には、コラーゲン・ラボ 500 倍にクトグリーン 500 倍の葉面散布」

◎茎葉に十分な光線（太陽の光）を注ぎ込む。

「天井ビニールの汚れは洗浄での対応」

◎ハウス内の換気・下温と低湿度調整

「ハウス内の環境を整えて病虫害の抑制」

③養分転流の促進対策

◎秋芽収穫の打切り時期の前進化

「収穫は暖秋であっても 10/中前後で終了・遅延収穫は春芽に大きく影響」

◎糖分蓄積に転流促進剤 PK ゴー2000 倍を 3 回（7～10 日置き）葉面散布

「糖分蓄積は春芽に大きく影響しますので最低気温 10℃から処理」

◎養分転流時期になったら灌水量を増す。「週に 2 回は刈取まで実施する」